

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第52号

[2013年5月号]

メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第52号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

スタディツアーのご案内	[2]
メソトマンスリー	[5]
国内から	
・ JAM スタッフの仲間入りしました	[8]
今月の一枚	[9]
編集後記	[9]
次号の予定	[10]



スタディーツアーのご案内

メータオ・クリニック支援の会は今年もスタディーツアーを開催します。

日本語しか話せなくても大丈夫！海外旅行が初めての方も大歓迎！
当会スタッフ（日本人）がサポートします。

【おすすめポイント】

- ① 普段は特別の許可がないと訪問できない**難民診療所や難民キャンプを訪問**します！
- ② ノーベル平和賞候補にもなった難民診療所(メータオクリニック)の**シンシア医院長との会談**（予定）
- ③ 琉球大学国際地域保健学教室の教授であり、JAM代表でもある小林潤代表（JICA 長期専門家、国立国際医療研究センター国際医療協力局の派遣課医師として長年、途上国の地域保健、学校保健で活動）による**国際保健に関連したワークショップ**。
- ④ JAM から派遣されている**現地駐在の看護師スタッフ（日本人）との座談会**。
- ⑤ バンコク集合、バンコク解散なので日本各地から直行便で来ることが可能！
スタディーツアーの前後にバンコク観光も可能！
（ただし、バンコク観光については任意ですので当会スタッフはお手伝いできません・・・）

ミャンマー／ビルマ難民、移民の保健・医療の問題にご興味のある方は、是非この機会にご参加ください。

■ 日時：2013年8月4日（日）～8月9日（金）5泊6日（バンコク集合、バンコク解散）
バンコクまでの交通費、交通手段は各自で手配をお願いします。

■ お申込方法：

・以下を明記の上、申込みする旨をメールで support@japanmaetao.org（担当：神谷）へお送り下さい。

メールタイトル 「スタディーツアー申込み」

- (1) 氏名
- (2) 必ず連絡が取れるメールアドレスと電話番号
- (3) 住所（都道府県のみで結構です）、
- (4) 年齢
- (5) 職業
- (6) その他ご希望があれば記載してください。

当会スタッフと同じ便を利用希望、および当会にて航空券手配をご希望の方は早めにご相談ください。

お申込メールを確認後、こちらより正式な申込書類を添付したメールをお返しします。
その書類に記入、**押印**のうえ、メールに記載の宛先へ**郵送にて**お送りください。郵送にて提出していただいた書類が正式な申込書となります。

■ 申込締切：2013年6月10日（月）



■ 参加費：70,000円

*参加費には現地移動費、宿泊代、難民キャンプ訪問代、コーディネーター代、現地での朝食、昼食、夕食代を含みます。
バンコクまでの航空運賃、現地でのお土産代、飲酒代、その他個人的な支出などは含みません。

■ 対象：JAM 賛助会員

非会員の方は、賛助会員になることが条件となります。
賛助会員費として、一般3,650円、学生1,825円が必要になります。
詳しくはJAMのホームページをご覧ください。

■ 定員：10名(応募多数の場合は先着順)

■ 日程・内容

日にち(曜日)	時間帯	旅程
8月4日(日)	朝 夜	08:00 バンコク スワンナプーム空港集合 08:30 バンコク発 メソトへ移動 メソト着 Hotelチェックイン
8月5日(月)	午前 午後	<u>メータオクリニック訪問</u> JAM現地スタッフとともに、クリニックの内部を見学 シンシア医師に国境のクリニックの現状について伺います。 <u>シンシア医師との座談会</u> シンシア医師に国境のクリニックの現状について伺います。 <u>国境の橋訪問・マーケット見学</u> タイとビルマの国境に架かる橋へご案内します。向こう岸のビルマの様子もご覧いただけます。
8月6日(火)	午前 午後	<u>移民学校 Hope Schoolの見学</u> JAMの支援している移民学校を訪問します。 <u>ワークショップ</u> JAMの小林潤代表による国際保健の入門ワークショップ
8月7日(木)	終日	<u>難民キャンプ訪問</u> 日本が難民として受け入れたカレン民族の住んでいるキャンプです。
8月8日(水)	午前 午後	<u>移民学校の学校保健セレモニー参加</u> JAMでは、2008年から、ビルマ人移民学校の学校保健状況評価表彰を行っており、このセレモニーに参加します。生徒による催し物が用意されています。 ビルマ・マーケットでのお買い物、メソト市内観光、自由時間
8月9日(金)	朝 夕方	メソト発 19:00バンコク着 解散

宿泊：メソト市内のホテルに宿泊します。
移動：すべて専用のマイクロバスでの移動となります。

■ 留意点

○学生または未成年の方へ

保護者同意書の提出が必要となります。別紙「保護者同意書」に必要事項を記入し、ツアー初日の集合時に必ずご提出下さい。当日提出できない場合は、ツアーの参加ができなくなりますのでご注意下さい。



○持病のある方、治療中の方、その他体調に問題のある方へ

申込の前に必ずかかりつけの医師にご相談下さい。また現在、内服または自己注射等で治療中の方は、申込書にその旨ご記入下さい。状況により医師の診断書をご提出のうえご参加いただく場合や、やむを得ずツアーの参加をお断りさせていただく場合があります。現地では日本と同等の医療を受けることが困難であり、また思わぬ緊急事態によって帰国が延期された場合など、病状の悪化や治療中断の恐れがあることをご理解下さい。ご熟慮のうえお申込みいただきますようお願い申し上げます。

○ツアー開催時タイは雨期で、メータオ・クリニックの位置する地域は特に雨の多い場所です。雨具および長袖の衣類をご持参いただきますようお願いいたします。

○現地はマラリアの流行地ではありませんので予防内服は必要ありません。しかしデング熱は特に雨期に多発しております。虫除けには十分ご注意ください。

○予防接種として特に必須なものはありません。ただし夜間の外出は極力控えるようにしてください。

○全日程に、JAMスタッフ（日本人）が同行します。

○海外傷害保険への申し込みはツアー参加の条件とします。参加費には保険代金は含まれませんので、渡航までに各自でご加入ください。申し込み先、保険の内容は問いません。参加者の安全についてはJAMの同行者が最善の注意を払いますが、ツアー期間中に事故、盗難、病気などが発生した場合、その補償はすべて参加者が加入する旅行保険でカバーしていただきます。

○宿泊はすべて一人部屋をご用意します。ツインルームをご希望のお客様は事前にお申し出ください。その場合は一人部屋との差額を現地でお返しします。

○ツアー中の朝食、昼食、夕食は参加費に含まれていますが、バンコクでの集合日の朝食と解散日の夕食は含みません。

○スケジュールは、2013年5月現在のものです。現地交通状況、視察施設の諸事情などにより予告なく内容および訪問順序が変わることがあります。あらかじめご了承ください。

* 以前に開催したスタディツアーの内容がJAMのホームページに掲載されています。ぜひご覧ください。

■問い合わせ

メータオ・クリニック支援の会 担当：神谷

Eメール：support@japanmaetao.org

ご質問等ありましたら、神谷までメールにてお気軽にお問い合わせください。

皆様のご参加お待ちしております。



メソトマンスリー



【メソト=前川 由佳、田畑 彩生】

きょうのゆめ

今月のスタッフは、ソータンルインさん、39歳です。

現在は、地域保健サービス部門の代表、学校保健チームのリーダー的役割として頑張っています。

東スゴーカレン民族の彼は、東スゴーカレン語、東ポーカレン語、ミャンマー語、タイ語、英語を話します。

3歳の時にお母さんを肺の病気で亡くし、6歳半の時に父が地雷被害で亡くなりました。その後は、おばさんとおばあさんと一緒に暮らしていました。兄弟は、お兄さん、お姉さんの3人兄弟。現在は、奥さんと7歳の息子さんと一緒に元気に暮らしています。故郷の村では、高校も10年生まで卒業出来る人は少なく、村では2人目の高校卒業生。また、初めて大学まで卒業しました。

彼にインタビューをしました。

「大学では、工学部機械工学科を専攻しました。普通は6年で工学部を終了するものが、1980年代の政治問題で大学が閉鎖したりしたので10年かかりました。大学教育では実務的な事は学ばず、またビルマ国内で就職してもお給料が少ないので、更なる知識・経験を求め、2003年1月にメソトへ来ました。」

「マウンマウンティンとはMTCで友だちになりました。初めに働いた縫製工場での労働は、肉体労働で疲弊し、友人の彼らがメータオ・クリニックに呼んでくれました。そして今では、10年も働いています。今の仕事は好きです、たくさんの人を助ける事が出来るのは本当に素晴らしい。」

「将来の目標は、教育が大切だという考えから、村の子どもたちに教育をもっと受けさせてあげたいです。村の人々は教育の大切さに気づき始めています。教育は自信につながります。」

「息子へいつも言う言葉は、お金はちゃんと貯めること、将来大きな買い物をする為には貯金が必要であることを教えています。また、自分よりも貧しく困っている子どもたちに服や食べ物を寄付する為にお金を使うこと。人の気持ちを考えること。貧しい子どもたちに差別的な対応をしないこと。善い人間になる様にと伝えていきます。息子は、人道的な知識を持つ様な人間に育てたい。善い人間、差別をしない人間になって欲しいからです。」と、答えてくれました。





最期まで続く、温かな支援

あまり表には出ないけれど、入院施設を持っているメータオ・クリニックのひとつの大きな役割。それはご遺体の管理・火葬です。

入院病棟で亡くなった家族を村まで連れて帰るお金のない家族たち、増える出産件数と共に増加する早産児の死産、末期になって運ばれてくる患者さん、身分証を持っていないからと家主に運ばれてくる亡くなった人たち。クリニックでは亡くなった患者さんはもちろん、行き場のなくなった移民のご遺体の供養までも行っています。

その件数は年間約 300 人。

これらご遺体はクリニック内の遺体安置所にて一時保管され、その後火葬場に送られます。

昨年の夏、クリニック内に強い臭いの立ち込める日がありました。オフィスのスタッフが私たちにこの臭いの元を教えてくださいました。

それは患者さんのご遺体を保管している遺体安置所だったのです。

遺体安置所。

日本では通常、冷凍もしくは冷蔵下で保管されるご遺体ですが、そういった設備がないクリニックでは常温での保管を行っていました。雨季の高温多湿な気候によって腐敗の進行は早く進み、臭いが発生、この日の異臭騒ぎとなったのです。

その都度、火葬場へ行き火葬ができればいいのですが、資金的にも難しい。クリニックはできるだけよりよい環境でご遺体を保管できるようにと、温度を下げるために風通しをよくしたり工夫を凝らしていました。しかし、発せられる臭いから近づく野犬が接触したりとその管理は困難を極めました。

より開放的になっていく遺体安置所、接触する野犬たち。これは院内感染予防としても重大なことになりました。感染症で死亡した遺体への接触や遺体から浸出した体液・腐敗汁などの汚染は2次感染のリスク因子となり得るからです。

この新たな課題に院内感染予防チームも動き出しました。行うべきは、ご遺体の保管設備の充実と管理体制の強化です。

まずは、スペースが十分でない遺体安置所の増築です。以前までは最大 2 体までの保管スペースしかありませんでした。多い時で一日に 4 体となるご遺体、このスペースでは足りません。4 体は入るようにスペースを拡大、そして野犬に進入されないような風通しの良い構造としました。

そして次の課題は遺体保管庫の設置です。日本のように冷凍できる保管庫までは手が届きませ



んが、ご遺体の腐敗の進行を抑える5℃以下に調整できる冷却機能付き遺体保管庫を azbil みつばち倶楽部様からのご支援で購入、新しい遺体安置所に設置しました。現在、これら設備を十分に管理していくための体制強化として管理責任者、担当スタッフの選出などを進めています。

整えられた遺体安置所、適した温度下での管理ができる遺体保管庫、そしてこれらを継続的に管理するスタッフの体制。この対策と結果は、ご遺体からの2次感染のリスクを抑える、院内感染予防の観点からも大きな変化ですが、同時に亡くなった方々のご供養されるそのときまで安全で快適な場所に居られること。そのことに心からほっとしています。

ひとりひとりの最期の時まで、信頼と安心のなか多くの人々が集まるメータオ・クリニック。そこには人道的な医療だけでなく、人の最期をお手伝いする温かな支援もあるのです。



写真上；以前の遺体安置所

写真右；以前の遺体安置所内部、両側の台上にご遺体を安置していた。



写真上；新遺体安置所

写真右；適した温度(5℃以下)に調整できる冷却機能付き遺体保管庫

国内から

JAM スタッフの仲間入りしました



【東京＝神谷 友子】

昨年秋より日本国内スタッフとして活動させていただいています神谷です。
会報をご覧になっている方には、はじめましての方が多いかと思しますので今回は自己紹介させていただきたいと思ひます。

東京都に生まれ、小学生から埼玉県に住んでいます。調剤薬局の医療事務と障がい者のホームヘルパーの仕事を経て、看護師免許を取得して、現在看護師4年目です。新宿区にある総合病院の混合病棟（赤ちゃんから高齢者まで様々な病気の方が入院されていました）で2年間、内視鏡室（胃カメラの検査などを行うところです）で1年間勤務して退職し、この4月から東京都板橋区にある障がい児の療育病院の病棟（脳性麻痺のお子さんが多いです）で、毎日子どもたちの笑顔に癒されながら楽しく仕事をしています。地元の知的障がい者の通所施設にボランティアに行ったのをきっかけに障がい者支援に関心を持ちはじめ、将来的に障がいを持った方の生活のお手伝いができる人になりたいと思っています。プライベートでは、最近トランペットを習い始めて、時間があれば jazz バーに行っています。

昨年初めてメータオクリニックを訪問した際に jam を知り、現地では派遣スタッフの前川さん、田畑さんにはとてもお世話になり、お二人の熱い想いと活躍に感動しました。そして縁あって jam スタッフの仲間入りをさせていただきました。

今年8月のスタディツアーの担当となり、スタッフとして同行させていただくことになりました。みなさまのご参加お待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。



写真左が私です。

写真左にいるのはシンシア医師。右が私です。

今月の一枚



クリニックスタッフの結婚式。
スタッフの子どもさんも総出でお手伝いします。
憧れのブライズメイド、素敵なドレスを着て今日は花嫁さんのお手伝いです。
投げて投げて、キラキラと花びらが自分にかかってしまうの…って（^^）
小さな手で一生懸命頑張っています。かわいいね。

編集後記

ゴールデンウィークに「しまなみ海道」に行ってきました。
一度乗りたかった九州新幹線に乗って博多から福山まで行って、福山から尾道へ。
九州新幹線は、グリーン車のように座席が広くてびっくり！！

福山駅の発車ベルは加藤登紀子の「百万本のバラ」でした。バラの町なんだそうです。

広島県から愛媛県までの島々を橋がつながってサイクリングロードになっています。
尾道ラーメンを食べていざ出陣！！
レンタサイクルでママチャリをかりました。



橋は風も吹いてきて景色を見る余裕がないほどちょっと怖かったけれど、
天気もとってもよくて景色も「きれーーーーい！！」と大声で叫びました。
今回は時間の都合で因島までしか行けなかったけれど、次回は、まだ一度も行ったことがない愛媛県まで行きたいな！！

